



■ 目次

- ◆ 知財ニュース **NEW!**
- ◆ 技術ライセンス契約について

知財ニュース

今年上半期特許出願で江蘇、広東、北京は優位保持、中西部は安定成長

今年上半期における中国全国及び各省市の特許出願の関連データが先ごろ発表された。統計データによると、中国知識産権局が今年上半期に受理した中国国内の発明特許出願件数は25万6000件に、国内の発明特許登録件数は7万3000件に達し、前年同期比でそれぞれ27.4%、4.3%増加したことが明らかになった。中国国内の発明特許出願件数が著しく伸びていることから、中国の特許出願の構成は最適化が進んでいることが明らかになった。

各省市の特許出願受理件数のランキングでは、江蘇省が4万9756件で引き続き1位を維持し、続いて2位、3位は、広東省(2万9833件)、北京(2万7655件)で、さらに4位には浙江省(1万8949件)、5位に山東省(1万8533件)が入った。また、発明特許登録件数のランキングでは、北京が1万726件でトップに立ち、以下5位までは広東省、江蘇省、上海と浙江省がそれぞれ1万148件、8499件、5614件、5437件で続いた。なかでも、前年同期のランキングに比べ、北京が広東省を抜き発明特許登録件数の1位に躍り出たこと、天津が遼寧省に代わり発明特許出願件数のトップ10に、安徽省が遼寧省に代わり発明特許登録件数のトップ10に入ったことが注目されている。

また、総合的に見れば、今年上半期における特許の出願件数と登録件数のランキング順序は前年同期比で、さほど大きく変化しておらず、以前から特許出願に強い省市は依然として優位を保っている。そのうち、先頭グループには、江蘇省、広東省、北京といった沿岸省市が入ったことから、特許権保有件数は、その地域の経済発展状況に比例していることが明らかになった。次に、第2グループでは主に四川省、湖北省や陝西省など中西部において経済発展が比較的速い省市がそれぞれの地域的な優位性を発揮し、特許の出願件数と登録件数が安定成長している。例えば、陝西省ではここ数年、大学や研究機構などが豊富な研究成果の発掘を積極的に推し進め、特許の質の向上が顕著になったことが、同省で発明特許登録件数が急成長している要因の一つになっている。

さらに、ランキングリストから、大多数の省市における特許の出願件数と登録件数の順位は大体一致していることが分かる。また、北京と上海で、特許の登録件数と出願件数のランキングを比較すると、共に登録件数が出願件数

より2ランク上にランキングされたのは、北京、上海における経済構造の優位性を明らかにしている。そして、北京が特許登録件数がトップになったのは、技術含有量の比較的高い企業が比較的多いことも要因の一つである。

情報ソース: 中国知識産権局

今年上半期の3種類の特許出願件数百万件を突破

中国知識産権局が今年上半期に受理した3種類の特許出願件数は101万2000件に達し、前年同期比で18.1%増加した。このうち、発明特許出願件数は31万6000件、実用新案は39万7000件、そして意匠出願件数は29万9000件と、前年同期比でそれぞれ22.5%、25.6%、5.7%増加した。また、発明特許、実用新案、意匠の出願件数は、それぞれ全体の31.2%、39.2%、29.6%を占めた。全体的な特許出願の伸びがやや減速するなか、中国国内の発明特許出願が著しく伸び、特に発明特許出願のうち職務出願が80%以上を占めたことが際立っていた。

また、受理された発明特許出願のうち、国内出願は25万6000件で、前年同期比27.8%増と、全体の81%を占めたのに対して、国外出願は6万件で、前年同期比5.3%増と、全体の19%を占めた。さらに、国内の発明特許出願のうち、職務出願は20万9000件で、全体の81.6%、非職務出願は4万7000件で、全体の18.4%を占めた。

さらに、今年上半期の3種類の特許の登録件数は、前年同期比26.8%増の7万2000件だった。内訳は、発明特許が同様に1.9%増の10万9000件、実用新案が55.3%増の36万5000件、意匠は5.3%増の19万8000件であった。発明特許、実用新案、意匠の登録件数は、それぞれ特許登録件数の総数の16.2%、54.3%、29.5%を占めた。

登録された発明特許のうち、国内の登録件数が同4.3%増の7万3000件で、全体の67%を占め、国外の登録件数は前年同期とほぼ同じ3万6000件で、全体の33%を占めた。さらに、国内の発明特許登録件数のうち、職務発明が全体の89%にあたる6万5000件で、非職務発明が11%の8000件であった。

有識者によると、前年同期と比べ、中国の今年上半期の特許の出願件数と登録件数には以下のような特徴が見られた。まず、受理した特許出願件数の伸びは昨年より大幅に減速しているにもかかわらず、国内の発明特許出願件数が著しく伸び、増加率は前年同期比より5.6ポイントアップし、国内の特許出願の80%以上を占めた。次に、国内の発明特許出願において全体の80%以上を占めた職務発明のうち、企業による出願が7年連続して職務発明の70%程度を占めた。さらに、発明特許登録件数の伸びは小幅であったが、実用新案登録件数は急増した。



情報ソース: 中国知識産権局